

草小全校児童が「愛郷活動」

ごみ拾いでふるさとをきれいに



▲道路沿いのごみを拾う子供たち

4月16日、草野小学校児童が全員参加して、ごみ拾いの奉仕作業が行われました。

「愛郷活動」と名付けられたこの活動は、子供たちの心ふるさとと環境を美しくしようとする気持ちと育み、また奉仕する子どもたちの姿を地域の人たちに見てもらふことで、大人たちにも環境美化に対する意識を持つ

てもらおうと、同小学校が毎年行っているものです。

この日子供たちは、各部落ごとに編成された班に分かれ、学校周辺や道路、公民館などのごみや空き缶を拾いました。ごみは持参した袋にたちまちいっぱいになり、子供たちは投げ捨てられたごみの多さに驚いていました。



「先輩からの学び」

各老人クラブの総会や花見の折、合わせて金婚式という機会がここ一カ月ほど続いています。

結婚50周年ですから、多分昭和28年に結婚されたはずですが、私は小学2年生ぐらいの頃ですから漠然とした記憶ですが、まだまだ物不足で、お金の回りも悪く、重労働も当り前という時代だったような気がします。

ですから、今のような晴れやかな式場も披露宴もなく、また新婚旅行もなかったことでしょう。

そのあたりのことについて金婚を迎えた方たちに聞いてみると、「結婚式の夜はエプロンを掛け、茶碗洗いをした」「早く帰って二人にしてもらいたいのに、夜中まで客が…」「新婚

旅行は、田畑の作業か炭焼き小屋だった」などということ、懐かしそうに話されます。今の若者たちには「おとぎ話」に聞こえることでしょう。

「苦勞に苦勞を重ねてこられた、私たちの先輩方の、第2の結婚式が金婚式なんだなあ」と、しみじみ思わずにはいられませんでした。

ところで、そのような各地の老人クラブの集まりには、とても楽しく面白い「出し物」が付くことがあります。座が盛り上がる「芸？」を見ながら、昔の方はとても滑稽で芸達者な方が多かったのに、今の私たちの年代、あるいはそれ以後の者には、「そういった方が少ないのでは？」と思ったりもしました。

私などはその典型ですが、今からでも村民の訓練の場的な「芸能大会」があっても良いのではなどと先輩の特技に、感心しきりの時を過ごした次第です。

平成15年4月30日

飯館村長 菅野 典雄